近畿大学病院腎臓内科で診療を受けられた皆様へ

近畿大学腎臓内科では、以下の臨床研究を実施しておりますのでお知らせ致します。

【研究課題名】

糖尿病性腎臓病患者の腎予後と Nesfatin-1 濃度の関係

【研究の目的・意義】

糖尿病性腎症（DN）は 1998 年以降、透析導入患者の原疾患の第 1 位となっており、その減少は医学的・社会的に喫緊の課題となっています。しかし、未だ有効性な治療法は確立されておらず、新しい治療戦略がもとめられています。近年、典型的な臨床経過と症候（糖尿病歴、蛋白尿を経て腎機能低下、糖尿病網膜症・糖尿病神経障害の合併など）を伴わない DN 症例が増加してきており、加齢や高血圧を背景とした動脈硬化や脂質異常症の関与が推定されています。この変化を反映し、典型的な DN を含む、糖尿病の病態が関与する CKD 全般を包括した概念として、糖尿病性腎臓病（DKD）という病名が用いられるようになりました。

Nesfatin-1 は 2006 年に発見された摂食抑制作用を持つ神経ペプチドで、これまでに、糖尿病患者におけるインスリン抵抗性への関与や、動物実験において酸化ストレスを抑制し腎保護的に働くなど、様々な作用が報告されています。DKD における報告はまだ少なく、今回、我々は DKD の病期進行に Nesfatin-１がどのように影響しているかを、腎生検時の試料（腎臓組織、血清、尿など）と診療情報をもとに解析を行い、新しい診断方法や治療法の発見につなげていきたいと考えています。

【研究対象者】

2011 年 3 月～2021 年 9 月までに近畿大学病院腎臓膠原病内科および腎臓内科にて腎生検が行われ、糖尿病性腎臓病と診断されている方

【研究の方法】

試料を用いて、腎臓組織の重症度評価や血清 Nesfatin-1 濃度の測定などを行います。また、診療情報の追跡から腎臓の予後についての検討も行います。本研究は、倫理的、科学的および医学的妥当性に関して、近畿大学・倫理委員会で審査され、承認を受けたうえで実施されます。

【研究で利用する試料および情報】

・試料：腎生検時に採取した診断利用後の残余試料（腎臓組織、血清、尿）

・臨床データー：血清 BUN、Cr、eGFR、Na、K、コレステロール、中性脂肪、尿蛋白、尿糖、尿潜血など）

・個人情報：年齢、性別、体重、BMI、既往歴、内服歴など

【個人情報の取り扱い】

研究対象者の個人情報に関しては、外部に漏れることがないよう十分に配慮されています。本研究での成果を学術雑誌や学会で発表させていただく際は個人が特定できる情報は使用致しません。本研究について質問があったり、参加されたくない方はいつでも担当医もしくは下記連絡先にご連絡ください。参加されない場合でもあなたが不利益を受けることは一切ありません。

【試料および情報の二次利用の可能性】

今回、提供して頂いた試料・情報は非常に貴重なもののため、ご理解頂けるなら、本研究で利用した後の残りの検体については、近畿大学でそのまま保存し、今後、新たな研究が計画された場合に役立てたいと考えています。新たな研究が計画された場合は、その都度、近畿大学病院・倫理委員会で研究の妥当性や個人情報保護の方法について審査を受けることになっており、勝手に研究に利用することはありません。

【研究機関の名称および研究責任者氏名】

近畿大学病院　腎臓内科　准教授　中谷　嘉寿

【問い合わせ先】

担当者　近畿大学病院　腎臓内科学　准教授　中谷　嘉寿

TEL : 072-366-0221　　FAX : 072-368-0168

E mail : y-nakata@med.kindai.ac.jp

作成日：**2023** 年 **3** 月 **14** 日